

## 全世代型社会保障

皆様方には日頃よりご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

令和になって初めての正月は、西高東低の冬型の気圧配置が日本列島を覆い、日本海側の各地は雪や雨となりましたが、首都圏は比較的穏やかな日和となりました。新春恒例の箱根大学駅伝も好天に恵まれて選手達の軽快な走りを支え、多くの区間で新記録が生まれました。昨年 of 雪辱を果たし優勝した青山学院大学は、これまでの記録を7分近く短縮する驚異的な新記録を打ち立てました。

さて、昨年9月に設置した政府の「全世代型社会保障検討会議」は、12月19日に中間報告を取りまとめ、公表しました。

報告書では、少子高齢化が急速に進む中で横並び、画一的な社会システムのあり方を根本から見直し、多様な学び、多様な働き方、そして多様なライフスタイルに応じて安心できる社会保障制度を確立する必要があるとしています。

具体的には、医療提供体制について、健康を望む国民一人一人の自主的な取組を可能とする環境を整備するとともに、地域包括ケアシステムの構築、地域共生社会の実現に向けた取組を進めることが重要としています。

医療保険制度に関して、高齢者の就労が拡充している状況を踏まえ、75歳以上の後期高齢者であっても一定所得以上の方については、医療費の窓口負担割合を2割とすること、紹介状無しで大病院を外来受診した場合の初診時・再診時の定額負担額を増額するとともに、病院・診療所の外来機能の明確化を行いつつ、対象病院を病床数200床以上の一般病院に拡充することを提示し、6月の最終報告に向けて議論を進めるとしています。

この他、年金については、受給開始年齢の選択時期の上限を70歳から75歳に引き上げること。週20～30時間の短時間労働者の厚生年金への加入の適用範囲を現在の従業員500人超の事業者から順次拡充し、2024年10月には500人超の事業者に適用することとしています。また、定年延長や定年後の延長雇用など多様な選択肢を示した上で、70歳までの就業機会を確保するとともに、兼業・副業などの柔軟な働き方を推進するとしています。

今回の中間報告の取りまとめに当たっては、自民党の「人生100年時代戦略本部」のまとめた「人生100年時代の全世代型社会保障改革の実現」の内容を十分に踏まえたものとなっています。この自民党の報告書に記された「健康でない者を差別することはあってはならず、安心して治療を受けられる環境を維持・強化することは当然であり、また、健康的な活動を強制することにならないよう留意が必要である。」ことは、今後の議論において常に念頭に置いておかなければなりません。